

ISO/TC 68 国内委員会総会 議事録¹

日 時：2020 年 7 月 15 日（水）13：00～13：30
場 所：日本銀行本店（電話会議）
出席者：ISO/TC 68 国内委員会 委員・リエゾン・事務局
日本銀行 金融研究所長・決済機構局長 ほか

- 2020 年 7 月 15 日に開催された ISO/TC 68 国内委員会（以下、当委員会）総会の議事の模様は以下のとおり。

1. 開会挨拶

ISO/TC 68 国内委員会委員長の松本横浜国立大学教授が開会挨拶をした。

—— 松本委員長は、本委員会の体制変更に関する審議案件があるため臨時開催することになった旨、述べた。

2. 金融研究所長挨拶

現在の当委員会事務局機能を担当している部署である、日本銀行の関根金融研究所長が挨拶をした。

—— 関根所長は、本日の議題は、日本銀行内部での所掌変更に伴い、当委員会事務局を金融研究所から決済機構局へ変更する規約の改正案を諮りたい旨、述べた。ISO/TC 68 は 1972 年に設立され、1982 年頃に日本銀行が国内審議団体を引き受けて以降、40 年近い歴史の中で、日本銀行内部で事務局機能を担当していた部署が外国局（現国際局）から考査局（現金融機構局）と変わり、1988 年から金融研究所がかかわるようになったことを紹介。今回の決済機構局への所掌変更は、こうした歴史の中では先例のあることであり、委員各位が ISO 活動に取り組まれる上で、国内事務局としての業務に具体的な影響を及ぼすものではないことを説明。決済機構局決済システム課は、決済システムに関する基本的事項の企画及び立案を担当している部署で、決済分野における実務の肌感覚を持って日本の決済分野の企画立案を行っており、戦略的に重要性が高い標準化の議論には、こうした現場の肌感覚が必要であ

¹ ISO（the International Organization for Standardization：国際標準化機構）/TC 68（金融サービス分野の専門委員会）は、金融業務に利用される情報通信技術、情報セキュリティ技術等を対象とする専門委員会。

ることや、金融機関関係者の実務に根差した意見を議論の場に積極的に届けることが重要であることを述べた。また、金融研究所は、今後も ISO/TC 68 の活動に関する先端的な研究結果・知見を蓄積し、よりよい標準規格の制定に向けたサポートができるよう努力を惜しまない所存であることを言い添えた。

3. 事務局から規約改正案の説明・審議

日本銀行内部での所掌変更に伴い、7 月 20 日以降は当委員会事務局をおく部署が日本銀行金融研究所から日本銀行決済機構局へ変更される旨、説明した。続けて、当委員会 運営規約 第 9 条 1 項および附則の改正案の審議に入り、出席している委員各位から異議なく承認された。最後に、経済産業省（JISC）に変更の通知を提出することも説明した（別添資料）。

4. 決済機構局長挨拶

7 月 20 日以降、当委員会事務局機能を担当する部署である、日本銀行の木村決済機構局長が挨拶をした。

—— 木村局長は、決議に対する感謝の意とともに挨拶を述べた。決済機構局は、日本の決済システムに関する基本的事項の企画及び立案を担当しており、銀行やフィンテック企業、IT 企業、ベンダー企業との接点が多いため、標準化に関するアンテナを張りやすいとしたうえで、今後、金融業界における触媒役（カタリスト）としての機能や、決済のオペレーターとしても標準化活動に高い関心を払って取り組んでいきたいと述べた。また、ISO 20022 などのメッセージフォーマットの規格とそれを支える各種 ID および暗号化技術等は、日本の決済システムを運営する上で、極めて重要であるとして、金融サービスの実務を支える金融機関をはじめ全ての関係者が、TC 68 の活動にこれまで以上に積極的に関与し、国際標準となりうる日本発の規格を自らの手で起案していただけるよう、決済機構局は国内委員会事務局として活動を最大限サポートしていきたいと述べた。

5. その他報告等

現在、7月16日締切で当委員会の委員・リエゾンあてにコメントを募集している、ISO 20022 RMG の組織改編について、ISO 20022 RMG 国際事務局から新しいガバナンス体制案が提示されたことを事務局から説明した。当委員会委員で ISO 20022 RMG 副議長の田貝氏からは、参考情報として「組織名称は Registration Management Group のままで良いのか。取引以外でも ISO 20022 を使用することの議論が進んでいる中で Registration 以上の役割を担っていくような意気込みのある名前にしてはどうか」といった意見が寄せられていることや、「現行の仕組みでは、もし RMG で収拾がつかなくなった場合は SC9 にエスカレーションし、SC9 で収拾がつかなくなった場合は TC68 にエスカレーションするが、その仕組みを完全に外してしまって良いのか」といった点について、ISO 20022 RMG 国際事務局は TC68 および SC9 国際事務局から問われている状況であることが説明された。

このほか、事務局からは、当委員会ホームページをリニューアル（ISO/TC 68 規格一覧の掲載等）したことや、前回総会（6月18日）以降の委員異動情報等を報告した。最後に、次回の当委員会総会の開催日は、2020年11月9日（月）を予定しており、開催方法は別途ご連絡することを説明した。

以 上